

平成28年度 事業報告

社会福祉法人 福岡育児院

1. 児童の処遇状況

(1) 事業実績(平成28年度)

【定員77名(うち 地域小規模施設 12名)】

入所定員	77名	延人員	924名
平均入所数	65名	延入所数	779名
入所率	84%		

§ 平成28年度 入所児童の年齢別調

	H27.4.1			H28.4.1		
	男	女	計	男	女	計
幼児	3	6	9	3	5	8
小学生	17	11	28	10	12	22
中学生	7	7	14	8	6	14
高校生	12	7	19	7	9	16
合計	39	31	70	28	32	60

§ 平成28年度 入所状況

	平成27年度			平成28年度			
	男	女	計	男	女	計	増減
幼児	2	4	6	2	6	8	+2
小学生	2	2	4	1	2	3	-1
中学生	3	1	4	4	4	8	+4
高校生	1	2	3	1	0	1	-2
合計	8	9	17	8	12	20	+3

§ 入所児(理由別)

H29.3.31 現在

措置理由	
父母の死亡	0
父母の行方不明	0
父母の不和	0
父母の拘禁	1
父母の入院	2
父母の就労	6
父母の性格異常・精神障害	5
父母の虐待(放任)	18
(身体的)	5
(心理的)	0
(性的)	0
養育拒否	0
破産等の経済的理由	7
不登校	0
その他	15
合計	59

*措置理由の内訳については、児童票の養護内容欄に記載されている分の集計です。

§ 入退所状況(平成29年3月31日)

(単位は%:名)

月区分	4月初	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末
幼児	8	10	11	11	12	12	12	12	12	13	14	14	14
小学校	22	22	22	23	23	21	21	21	21	22	22	22	22
中学校	14	16	17	17	16	15	14	14	14	17	17	17	18
高校生	16	15	15	15	16	16	16	16	14	14	14	14	14
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	60	63	65	66	67	64	63	63	61	66	67	67	67
入所率	77.9	81.0	84.4	85.7	87.0	83.1	81.0	81.0	79.2	85.7	87.0	87.0	87.0
入所 合計20名	0	4	2	1	3	0	0	0	0	6	2	1	1
退所 合計13名	0	1	0	0	2	3	1	0	2	1	1	1	1

§ 退所人員(理由別)調(平成29年3月31日)

		父のみ	母のみ	両親	その他	計
退 所	家庭引取り		11		1	12
	他施設へ 進学 (大学・短大・専門学校)	1	3		1	4
	就職		5			5
	その他(行方不明)		1			1
	合計	1	20		2	23

§ ショートステイ及び一時保護児童の状況(平成29年3月31日)

	平成27年度				平成28年度			
	ショートステイ		一時保護児童		ショートステイ		一時保護児童	
	人数	在籍日数	人数	在籍日数	人数	在籍日数	人数	在籍日数
4月	5	13	0	0	8	24	2	42
5月	6	39	0	0	4	13	3	24
6月	2	13	0	0	1	2	2	60
7月	4	12	0	0	7	22	2	62
8月	6	20	0	0	2	4	2	62
9月	2	6	6	48	4	11	2	60
10月	6	34	3	93	4	15	2	62
11月	3	4	6	72	3	14	3	74
12月	2	6	3	54	3	10	3	68
1月	0	0	0	0	5	6	2	60
2月	0	0	1	27	3	11	0	0
3月	2	9	2	48	0	0	0	0
計	38	156	21	342	44	132	23	574

(2) 帰省状況(平成28年度)

イ. 夏休み (8月12日～15日を中心に10日以内)

8月13日在籍数	64名
○お盆里親	1名(2%)
○帰省児童	34名(53%)
○居残児童	29名(45%)

ロ. 正月 (12月30日～1月3日を中心に10日以内)

12月30日在籍数	67名
○里親	2名(3%)
○帰省児童	28名(42%)
○居残児童	37名(55%)

(3) 入所児童の進路・進学状況(平成28年度)

① 高等学校卒業(男子3名・女子4名)

進学	明治大学商学部商学科	女子1名
就職	ヨシワ工業株式会社	男子1名
〃	阪九フェリー株式会社	男子1名
〃	株式会社クリエイトレストランツ	男子1名
〃	シーエックスカーゴ株式会社	女子1名
〃	株式会社明月堂	女子1名
〃	自衛隊候補生	女子1名

② 箱崎清松中学校卒業(男子2名・女子3名)

多々良中学校(地域小規模ポラリス)卒業	男子1名
多々良中央中学校(地域小規模アイリス)卒業	女子1名

高等学校進学	福岡魁誠高等学校	男子1名・女子1名
	福岡工業高等学校	男子1名
	博多女子高等学校	女子1名
	福岡有朋高等専修学校	女子1名

③ 博多幼稚園

年中	男子1名	女子1名(入園)
年長	女子2名	

(4) 年間行事

別表「平成28年度年間行事」のとおり実施。

(5) 入所児童の活動状況について

こども達は、スポーツ面や文化面において意欲的に取り組んでおり、数多くの成果を挙げています。

・福岡市児童福祉施設球技大会	野球の部	優勝
・福岡県児童福祉施設球技大会	野球の部	準優勝
・九州児童福祉施設球技大会	野球の部	出場
・福岡市児童福祉施設球技大会	バレーボールの部	準優勝
・福岡県児童福祉施設球技大会	バレーボールの部	出場
・児童文化奨励絵画展	高校生の部	銅賞

2. 職員の処遇状況

職員配置実績

区 分	28年度 配置数 H28.4.1	27年度 配置数 H27.4.1	増 減	備 考
施 設 長	1	1		
主任指導員	1	1		
主任保育士	1	1	+1	
家庭支援専門相談員	2(兼任1)			
女 子 部	6	6		
男 子 部	8	8		
幼 児 部	9(4)	7(2)	+2	
グループホーム	1	1		男子部
ボラリス	5(2)	4(1)	+1	男子6名
アイリス	3(1)	4(1)	-1	女子6名
処遇職員計	35(7)	32(4)	+3	
調 理 部	6(1)	6(1)		
心理療法士	3(2)	3(2)		
事 務 部	2(1)	2(1)		
嘱 託 医	1(1)	1(1)		入江小児科医院長
合 計	48(12)	45(9)	+3	

〔備考〕 1. 計画数の（ ）内は非常勤で、内数です。

3. 施設の運営状況

前年度に引き続き、平成28年度も、福岡育児院の家庭的養護推進計画に基づき、さらに本体施設の小規模化、ケア単位の個別化、地域分散化を計画的に進めていく。

児童の処遇面については、処遇困難な高年齢時（中高生）の入所や、短期での入所の受け入れが昨年に引き続きとても多かったことで、全体的に落ち着きがなかった。

職員体制においては、発達障害を抱えている児童、虐待を受けた児童等、専門的なケアを必要とする児童に対して、適切な関わりが出来るスキルを身に着けるための研修の充実と、職員にとって安心・安全な職場作り（長時間労働をしない。良好な人間関係の構築。）についての取り組みを早急に行わなければならないことを痛感した。

(1) こどもの権利擁護と自立支援

○こどもの支援について

こどもの支援に当たっては、養育理念であるこどもたちが「福岡育児院で育てられて良かった」と思える施設づくりを基本に置き、こどもの権利擁護と自立支援のために、次のような重点方針によりこどもの支援を行った。

(ア) 正しい基本的生活習慣を培い、節度ある態度を育てる。

(イ) 社会に出たとき信頼され自立できる人間、ひとの痛みがわかる人間、ひとに感謝する気持ちを持てる人間の育成を図ることを自立支援の基本とする。

(ウ) こどもの個別状況に応じた支援を通して愛着形成と自らを認める自尊感情の一層の確保・増進を図る。

(エ) スポーツを通じた心身の鍛錬により、辛抱強さ、集中力、やる気や向上心を培う。

- (オ) 学力の向上のため、職員による学習指導を強化すると共に、学習塾の活用を図る。
- (カ) 夢を持てるこどもを育てる。
- (キ) 処遇職員と心理士の連携により、こどもの情緒の安定・改善を図ると共に、処遇職員のこどもの行動理解・支援技術の向上を図る。
- (ク) こども用図書の整理・充実を行う。

(2) 良質な職員の確保と育成

真にこどもの養育に情熱と愛情を持てる職員を確保・育成するため、次のような事を行った。

- (ア) こどものより良い支援を行うには、職員の資質、支援技術等の向上を図る必要があるため、職員研修には積極的に取り組んだ。施設内における職員研修（西南大学・野口氏によるスーパーバイズ等）は毎月行い、福岡市乳児院児童養護施設協議会や福岡県・九州・西日本・全国の養護施設協議会等が主催する職員研修に多数の参加をさせた。
- (イ) 職員のストレスケアと自己研鑽のために、(株)ホームサポート・産業カウンセラー城間氏による職員全員への個人面接（カウンセリング）を複数回実施した。
- (ウ) 良質な職員を確保するため、福岡県社会福祉協議会の人材センターやハローワーク等を通じた公募による職員採用を行った。

(3) 居住環境や職員の執務環境を保持・増進

こどもたちのより良い居住環境や職員の執務環境を保持・増進するために、主に次のことを行った。

- (ア) 設備の点検と修繕（施設内建具等修理、3階女子トイレ温水便座設置、空調室内機・室外機修理、グラウンド・遊具整備、他）
- (イ) 物品購入（児童自転車、公用車2台、養護日誌ソフト及び専用パソコン、他）

(4) 施設運営の透明化の推進

- (ア) 広報誌の発行

福岡育児院の広報誌「ふれあい」第11号を7月に発行し、保護者、地域の方、関係機関等に配布した。

- (イ) ホームページの充実

施設の運営・経営をより透明化するため、財務諸表を公開し、苦情解決委員会の第三者委員の氏名・電話番号・住所をホームページに公表している。

また、こどもたちのスポーツ活動等の生活状況も掲載し、入所児童に対する理解をいただけるように努めている。

地域との連携を深めていくためにも、まずは福岡育児院の状況をお知らせすることによって、福岡育児院を身近に感じていただくように努めている。今後も、最新の情報提供を迅速に行うようになお一層の推進を図る。